

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 傍線部①『「戦前」だと感じます』とは、具体的にどう感じていることですか。本文中から1文で抜き出し最初の3文字を書きましよう。

--	--	--

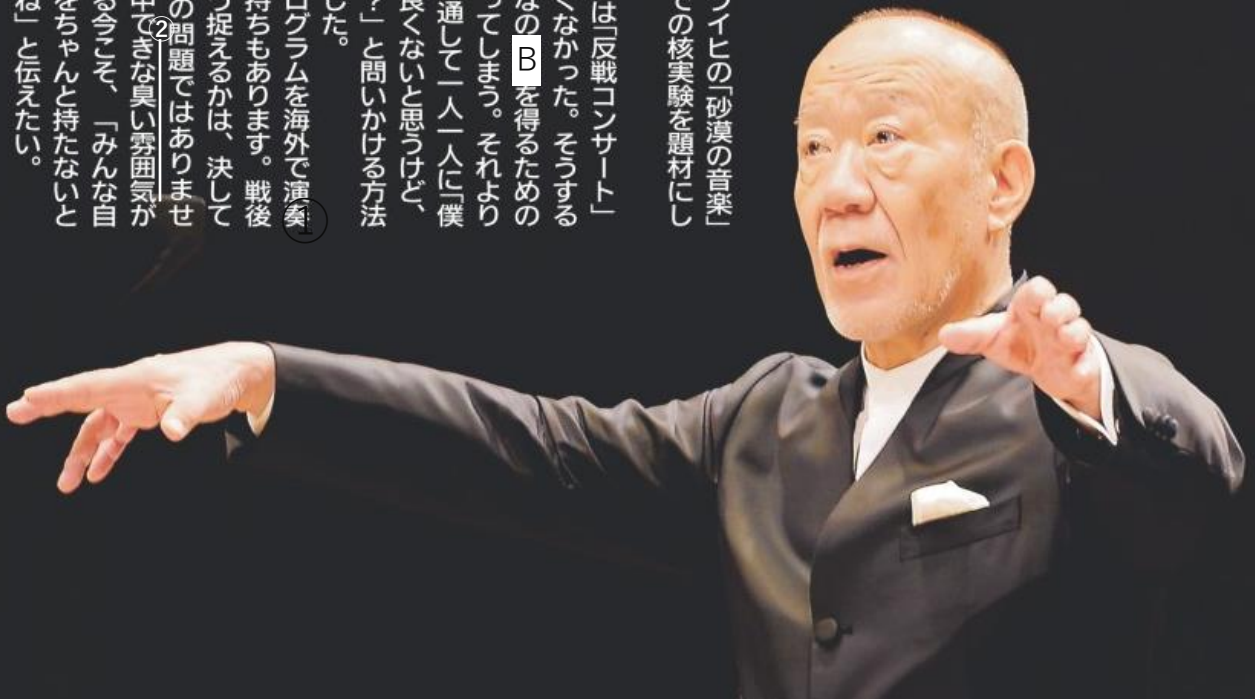
2 空欄A～Dに入る語句を次の㉠～㉧から選んで記号で書きましよう。

- ㉠賛同 ㉡反対
- ㉢肯定 ㉣否定
- ㉤違い ㉥同質
- ㉦つながり ㉧切り替え

A		B	
C		D	

久石譲 — 戦後80年に思う

スタジオジブリ作品などの映画音楽や斬新な現代音楽で知られる作曲家の久石譲さん(74)。指揮者として世界を飛び回る一方で、戦争をテーマにした楽曲も手がける。戦後80年、その音楽は私たちに何を問いかけるのか。平和への思いを聞いた。



戦後80年と言いますが、僕はもう戦後ではなくて「戦前」だと感じます。ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナ、他にも世界では多くの争いが起きています。次の大きな戦争がすぐそこまで来ているのではないかと心配しています。

「コンサートで世界中を回りながら感じるの、人々がお互いの「A」ばかりを言うようになるってしめたことですか。」

特に2001年の米中樞同時テロ以降、「違いはあるけど一緒にやろう」という風潮はなくなりました。今では想像以上に世界はぎくしゃくし、あらゆるところで分断が起きています。

24年夏、日本で戦争に関する曲を組み合わせたオーケストラのコンサートを開きました。一つは、僕が米同時テロをテーマに作曲した「ジ・エンド・オブ・ザ・ワールド」。ニューヨークの光景やアラブ世界をイメージし、終楽章では同名のスタンダードナンバーをアレンジしました。もう一つは米作曲家ステ

イーブ・ライヒの「砂漠の音楽」で、米国での核実験を題材にした曲です。

ただ、僕は「反戦コンサート」にはしたくなかった。そうすると、みんなの「B」を得るための運動になってしまう。それよりも、音楽を通して一人一人に「僕は戦争は良くないと思うけど、どう思う？」と問いかける方法を選びました。

同じプログラムを海外で演奏したい気持ちもあります。戦後80年をどう捉えるかは、決して日本だけの問題ではありませぬ。世界中で「きな臭い雰囲気」が漂っている今こそ、「みんな自分の考えをちゃんと持たないとまずいよね」と伝えたい。

若い頃は、過去の価値観を「C」して新しいものを作ってきた。20世紀を生きた作曲家も多くがそうだったと思います。でも、米同時テロで世界貿易センタービルに旅客機が突っ込み、崩壊したのを見て発想を変えました。破壊がもたらすのは分断でしかない。だからこそ、僕はクラシック音楽という過去を受け入れた上で今あるべき音楽を追求し、未来につながると思うたのです。ベートーベンのマーラーの延長にある「王道」を歩むのだ、と。

大切なのは「D」です。

海外のオーケストラを指揮して気付いたのは、年齢も能力も違うさまざまな人がいるからこそ、自分たちのサウンドが作れるということ。お互いの「違い」を認め、周りとうながっていく。そのための努力をすることが今の社会に必要なと思います。

音楽は世界を変えられるわけではないし、戦争を止めることもできません。ただ、音楽には人間を人間たらしめる重要な価値があり、(平和のために)できることがある。僕はそう信じています。

3 傍線部②「きな臭い雰囲気」の意味を、次の㉠～㉥の中から選んで、記号で答えましよう。

- ㉠火薬が爆発したようなあわただしい雰囲気 ㉡犯罪を疑うような雰囲気
- ㉢お互いにならぬようにしているような雰囲気 ㉣何か物騒なことが起こりそうな雰囲気

NIEワークシートのこたえ（2025年1月7日公開）

◆ワークシート「戦後80年 久石譲(国語)」
2025.1.5付 朝刊 13面 解答

1 次の大

2 A オ B ア C エ D キ

3 エ